

# せとる C E T L くおーたりー Quarterly

教育・学習活動支援センター広報 No.40

発行日 17. July. 2010

## 巻頭言 キャリア教育という思想

キャリアセンター長 山崎 純一

本年4月、キャリアセンター長に就任しました。文学部で社会学の教育と研究に従事して30年になります。これまで教務や学部の運営に係わってきましたが、キャリアについての知識、経験が豊富とはいえません。今は勉強中です。そのように読んで頂ければ幸いです。

### ・キャリア教育の義務化

さて、本年2月、文部科学省は設置基準を改正しました。それは、明年（2011年）度から、「大学および短期大学は、（中略）教育課程の内外を通じて、社会的・職業的自立に向けた指導等に取り組む必要がある」というものです。新聞各紙が「キャリア教育の義務化」と盛んに報じていましたから、すでにご存じかと思います。

しかし、文部科学省は、各大学の取り組みには、それぞれの教育目的などにより多様なものが考えられるから、「特定の教育内容・方法が大学等に課されるものではない」としています。つまり、各大学が教育機関としての社会的責任を果たす方途を、それぞれの理念のもとに構築せよ、ということです。

### ・創価大学のキャリア教育

本学は、本年度より、学内の中枢機関として

キャリア委員会を設置し、進路・就職やキャリア教育などの事項を検討する体制を整えました。

キャリア教育については、共通科目の中にキャリア教育科目群を設置し、「キャリアビジョン」「キャリアデザイン基礎」などの授業を行っています。また、文系の学部では一年生前期の基礎演習でもキャリアの時間を設け、ポートフォリオによるタイムマネージメントの講習がされています。共通科目だけでも、履修者は1年間で延べ2千数百人、授業アンケートによる評価も概ね良好です。しかし、さらなる充実を目指して、キャリア委員会の中にワーキンググループを設置し、キャリア教育のあり方について検討を行っています。

### ・キャリア教育とは

キャリア教育が学生の就職問題の対策として行われてきた経緯もあり、どちらかといえば就職対策講座としての性格が強い、あるいはそのように受け取られることが多いようです。本学では必ずしもそうではないのですが、一般的には、自己分析法、業界研究、エントリーシート対策など、就職対策スキルの性格が強い講座をキャリア科目とし、外部に授業を委託するなど、卒業段階の進学対策・就職対策に比重を置いて

いるようです。

進学・就職対策のために必要なスキルを学ぶことは大事なことです。また、それらのスキルが、学生にとって、なぜ働くのか、自分とは何かなどを反省・熟慮するきっかけになれば、それは大変望ましいことです。しかし、就職対策のスキルをキャリア教育そのものとすれば、それはあまりにキャリア教育を狭くとらえ過ぎることになります。実際、企業の人事担当者が異口同音に言うことは、様々な対策講座が提供するマニュアル通りに発想・行動する学生ではなく、自発的に発想し、分析し、行動する主体的人間を採用したい、ということです。

#### ・キャリア教育の目的

あらためて、キャリア教育の目的とは何か。それは、先ほどの大学設置基準の改正によれば、「社会的及び職業的自立を図るために必要な能力」を育成することです。しかし、学生が社会人・職業人として自立するために必要な資質を身につけることを、大学が支援することは、もともと大学の本質的機能の一つであるはずで

もちろん、大学には研究活動や研究者の養成、つまりアカデミズムで社会に貢献する機能もありますから、大学の社会的機能をすべて、学生の社会的・職業的自立に集約することには無理があります。それでも、学生の社会的・職業的自立を目的とするキャリア教育が、大学教育のかなり大きな部分を占めることは否定できません。敢えて言えば、大学教育の目的は自立的主体の形成です。大学教育はアカデミズム教育とキャリア教育からなり、両者が刺激し高め合うことで、大学での教育は展開されるべきものです。その意味で、キャリア教育とはアカデミズム教育との対抗的相互作用の中で自立的主体を

形成し、社会へ輩出することを、大学の大きな使命とするという一つの実践的な思想です。そう考えれば、キャリア教育は全学的に展開されるべきものです。

#### ・最後に

キャリア教育を実現するには、大学の教育課程そのものを、自立的社会人・職業人の育成を一つの重要な視点として、再構築することが必要です。その際に、大学教育のもう一つの側面である真理の探究、つまりアカデミズム教育を忘れてはなりません。自立的主体形成という目的のために、キャリア教育とアカデミズム教育を生産的に対立させつつ高度化させながら、教育課程を全学的に再点検し、再検討することが求められます。

もちろん、キャリア教育が目指すのは、従来のキャリア教育科目を絶対視して、既存の専門科目や共通科目を就職対策講座にすることではありません。自立的な主体形成という目的に向けて、既存の一つ一つの科目・授業を見直し点検して、専門科目と共通科目、そして現在のキャリア科目を体系的に関連付け、より高度な教育課程を構築することこそ、今の大学に求められているものです。

そうした意味で、キャリア教育という思想を一方の重要な視点として全学の教育課程に浸透させること。そのことで、学生が今の自分を見つめ、将来を真剣に考え、主体的にキャリア形成に向かうことができるようになる、と考えます。

この度、本年4月に新設されました学士課程教育機構の副機構長の重任を受けました。2000年のCETL発足時より同センター員となり、2007年4月から2年間は副センター長として関田センター長の下で学習セミナーやFD関連セミナーの企画・運営に携ってきました。新機構の目指すものについては前号で寺西機構長が紹介している通りですが、共通科目運営センター、CETL、WLC（ワールド・ランゲージ・センター）、GCPプログラムがいかに有機的に連動できるかが鍵であり、私自身は微力ながらそのために尽力していきたいと考えております。

現在、高等教育界では評価やアウトカムズ等、教育成果を第三者にわかりやすく提示することが求められてきております。私自身、そうした動向に敏感になり、もっと勉強していかないといけないと日々痛感しながらも心がけていることは、自身の足元を固めるということです。自分が担当しているゼミの学生を有為な人材に育てられているのか、担当授業の質はどうか、自身の研究を地道に積み重ね最新の学問成果を取り入れているのか。これらのことを常に自問しております。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

### 第3回 CETLセミナーを開催

第3回CETLセミナーは6月11日（金）16時45分から18時30分、文系A棟A424教室において、21名の教員が参加して開催されました。セミナーは「授業設計とシラバス作成」をテーマに、関田一彦教育学部教授（兼、教育・学習活動支援センター長）から授業設計・コース設計に関する考え方や方法の基礎について講義をいただきました。

また、佐々木論学士課程教育機構准教授から

「新潟大学の事例—医学教育ワークショップより—」をテーマにカリキュラム・マップの事例をまじえての報告があり、参加者の理解を深めることができました。

「大学教育の質保証」を支える大事な視点が明確になるセミナーとなり、新しい視点、考え方、方法などを理解する上で示唆に富むセミナーとなりました。

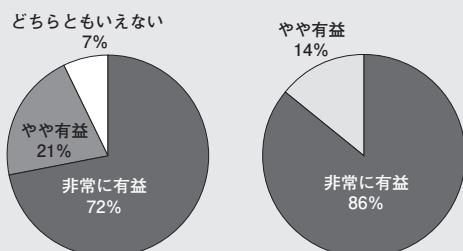


関田 教育学部教授



佐々木 学士課程教育機構准教授

内容は有益でしたか？ 内容は活用できそうですか？



## 参加者の声

- ・これまで考えてきたことの整理ができた。
- ・新しい視点、考え方、方法を獲得できた。
- ・有益な知識をいただき、ありがとうございます。これを技能として実践していきたいと思います。
- ・評価・ポリシーについてよく理解できました。

## 2010年前期 CETL学習セミナー開催について

今期は「初年次・導入教育を支える学習支援体制整備」事業（GP採択事業）の一環として、主に学部2年生以上を対象とした学習スキルアップセミナーを開催しました。

このセミナーは自己管理（タイムマネジメント）やライティング、リーディングなど、日々の学習活動の中で足りないと感じている学習ス

キルを強化し、学生の学びをより確かにする事を目的としています。

4月後半から7月の初めにかけて合計26回開かれたセミナーは、広報不足で参加者は少なかつたものの、満足度の高いものになりました。

後期は対象を1年生にも広げ、30講座以上を開講する予定です。

### 【開催された主なセミナー】

- ・自己管理 3講座（5回）
- ・思考促進 4講座
- ・ノート作り 1講座
- ・文献読解 1講座
- ・文章表現 1講座
- ・ライティング 3講座（6回）
- ・リーディング 2講座
- ・対人関係 4講座
- ・マインドマップ 1講座

合計26講座（5月～7月）

## 参加者の声

- ・ノートテキングだけでなく、他の学習にも応用できそうなのがわかったのでとても有益でした。（4月21日開催）
- ・また共に学んでいきたい。どんどんマインドマップを書いていきたい。（4月24日開催）
- ・タイムマネジメント力、マインドマップ基礎講座の定期的開催を願望！（5月8日開催）
- ・今日は楽しく、深く学びました。本当にありがとうございました。（5月15日開催）

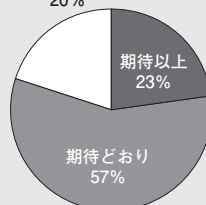


ライティングセミナーの様子

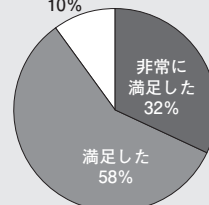
今日のセミナー（内容）はあなたの期待どおりでしたか？

今日の会場運営は満足いくものでしたか？

まあ期待どおり  
20%



まあまあ  
10%



## ICT活用教育推進部門の取組み

昨年度末をもって、平成19年度現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）が無事終了しました。この取組み期間中に、大学院生の博士論文に基づいて、新たにCollabTest(\*)を再開発しました。また、延べ100科目以上の講義科目でCollabTestが利用され、5,000名以上の学生によって10,000問をはるかに超える問題が作問されました。これによりICT活用教育の新しい方向性が示され、創価大学独自のシステムとして高等教育界のみならず、小・中学校の現場や各種企業等からも注目されております。関係者の皆様の多大なるご協力に感謝を申し上げます。そして今後の発展にどうぞご期待ください。

\*CollabTestとは、当時、本学の大学院生であった高木正則岩手県立大学講師が開発したグループ作問プログラムを基に、改良や新しい機能を追加し、新たに開発した本学独自のeラーニングシステムです。

### CollabTestとS-Linkについて

今年度よりCollabTestおよび学生ポートフォリオ「S-Link」はポータルサイト「PLAS」と連携し、IDやパスワードを入力せずにログインできる「シングルサインオン」が可能になりました。また全ての科目においてCollabTestが利用できる環境となり、教員も学生もポータルサイトからワンクリックで利用可能になりました。



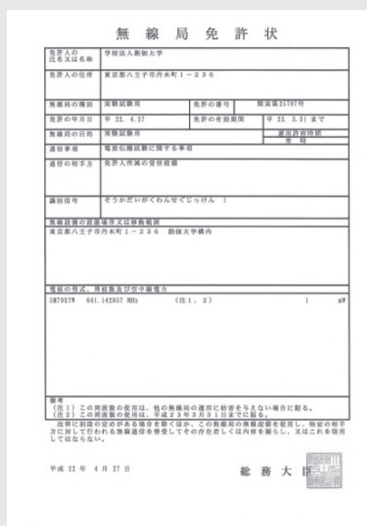
た。今後も、利用者の声をもとに、操作性の向上や授業ごとに変更可能な設定など、順次改良を加えていく予定です。また、ヘルプデスクを引き



きCETL内に設置し、学生ポートフォリオと合わせて教員、学生双方の質問対応等、サポート業務を行っています。

### ワンセグ実験放送の開始について

ICT活用教育推進部門は戦略的大学連携支援事業（戦略GP）と連携し、デジタルコンテンツの開発も進めています。ワンセグ放送は現在、学内2か所にアンテナを設置し、A棟内およびA棟周辺で視聴する事が出来ます。この放送では今後、講義科目のガイダンス映像やワンポイント講義等の放送を予定しています。



ワンセグ実験放送免許

## 【2010年12月】全学FDフォーラム講演者決定

今回の全学FDフォーラムは、12月11日（土）午後から大教室棟（S棟）で開催されます（詳細は後日）。基調講演として立命館大学 教学部大学教育開発・支援センター教授の江原武一先生をお迎えし、「大学教育改革、次の10年の動向を

考える ―アメリカの大学改革を参考にして―」という演題で学士課程における専門教育と教養教育の関係に焦点をあてたお話をして頂くことになりました。

## NPO CCC-TIES 「2010夏のシンポジウムin東京」のお知らせ (第4回CETLセミナー同時開催)

2010年8月24日（火）、「NPO法人CCC-TIES 2010夏のシンポジウム in 東京」が本学本部棟で開催されます。今回のシンポジウムでは、本学の山本英夫学長による基調講演のほか、通常の講義や演習などでTIESをご活用されている先生の事例報告やTIES利用のためのチュートリアル講座（第4回CETLセミナーを兼ねる）などが予定されております。

### NPO CCC-TIES 「2010 夏のシンポジウム in 東京」

テーマ ICTによる大学連携と「知域」貢献

主催 NPO法人CCC-TIES

共催 創価大学

後援 大学コンソーシアム八王子

※参加には「参加申込」が必要です。詳しくはCCC-TIESホームページ

<http://www.cccties.org/> をご覧ください。

## 編集後記

CETLは大学教育・学生支援事業（GP）の採択後、初めての夏を迎えます。GPの支援を受け、多彩な取組みを広範囲に展開していますが、2年目の成功、3年目の大成功を収めるためにはこの夏が勝負です。

暑い夏になりそうです。（T）

C E T L Quarterly No. 40  
編集・発行

創価大学 教育・学習活動支援センター  
〒192-8577 八王子市丹木町1-236  
Tel : 042 (691) 9782 内線 2146  
E-mail : cetl@soka.ac.jp  
<http://cetl.soka.ac.jp/>